

令和 元 年度

かほく市総合教育会議
議 事 録

令和元年12月18日

開 会

【山口教育部長】

令和元年度かほく市総合教育会議を開催します。

市長あいさつ

【油野市長】

教育委員の皆さんには、ご多用の中、総合教育会議にご出席いただき、また、日ごろから、かほく市の教育の推進にご尽力いただきお礼を申し上げます。

今年は、平成から令和と元号が変わり大きな節目の年となった。かほく市にとっても合併後の 15 年間は、合併優遇措置があったが、この措置もなくなり、独り立ちをした新たなかほく市がスタートする年となった。

また、一方でかほく市の総合戦略いわゆる、この人口減少に歯止めをかけて、地域を活性化しようということ、平成 27 年度に推進計画を策定し、5 年間の計画で最後の総仕上げの年となる。おかげで平成 27 年度から 4 年連続で人口も増え、今年度も現時点で 4 月から 8 ヶ月間で 148 人の人口が増えている。出生数についても、昨年度、かほく市となって初めて 300 人を超え、313 人が誕生し、今年も母子手帳の交付状況から 300 人を超える状況となっている。若い世代が、かほく市を選んでいただいているという流れになっている。子育て環境、教育環境の充実により、選んでいただいていると感じている。

昨年度は、かほく市教育大綱の策定、かほく市総合体育館整備基本構想、教職員の働き方改革について協議をさせていただき、いろいろな取組を進めてきた。

今後も引き続き、皆さんと連携を図りながら進めていきたいと考えているので、ご協力をお願いします。

【山口教育部長】

市総合教育会議運営要綱第 3 条の規定に基づき会議の議長は教育長とする。

議事進行は議長である山越教育長にお願いします。

議事録署名委員の指名

【山越議長（教育長）】

運営要綱の規定により会議の進行をします。市総合教育会議運営要綱第 4 条第 3 項の規定に基づき議事録の署名を油野市長、山本教育長職務代理者にお願いします。

協議・調整事項

在住外国人の教育支援について

【山越議長】

在住外国人の教育支援について、事務局から説明願う。

【本山学校教育課長】

・資料により、在住外国人の就学状況、参考都市の教育支援について説明をなす。

【山越議長】

まずは、教育委員の方から在住外国人の教育支援について発言願う。

【松井教育委員】

現在、国としても外国人の受け入れの施策を進めている状況の中、かほく市にどれだけの外国人が現在いるのか分からないが、将来的に多くの外国人を受け入れる企業が誘致された場合、きっと在住外国人の教育支援が必要になってくるだろうという思いがあって、今回、このテーマを出させていただいた。

また、2・3年前の夏休みに、ある学校で特別日本語教室をしており、支援のためのボランティアが困っている状況があった。

現在のかほく市の状況を聞き、思ったより少ないと感じた。また、就学している子どもも、それぞれ日本語が話せる、話せないなど状況が違うことも理解できた。この機会に市長の考えを聞ければと思う。

【油野市長】

現在、かほく市には350名の外国人がおいでだが、必要な研修を終えて企業として受け入れている方が多く来ており、市役所の窓口では、行政サービスの申請や相談などに特に支障が出ているとは聞いていない。企業誘致という点において、外国籍の方を雇い入れるような大企業が、かほく市に来るかということについては、現時点ではありません。また、いくつかの企業が、かほく市に来ていただけという話がありますが、多くの外国人を雇い入れるという話は聞いていない。多くの外国人が来られている都市の状況と違い、個々の状況に応じて対応するしかないと考えている。

【松井教育委員】

個々の状況に応じて対応するというので、これまでも国際交流協会との信頼関係に基づいて、ボランティアとして取り組んでいただいていると思っているが、そういった方々に謝礼を払うといった支援も必要ではないかと感じておりますが、市長さんはどうお考えか。

【油野市長】

教育委員会として、そういった事に取り組んでいきたいということで提案いただければと思う。これまでも、教育委員会から提案があったものについては、常に提案のとおり予算も付けてきた。当然必要だというものについては、しっかり協議していただき、提案いただければと思う。

ただ、国際交流協会のボランティアという形で、これからも続けるというのは難しいと思う。そういった方々だけを頼りにすることには、限界があるのではないか。

【山越議長】

今までは、国際交流協会のボランティアで支援をしていただいているのが現状だと思う。個々のケースにおいて、学校と教育委員会が協議し進めていきたい。ただ、中国やベトナムの方が多くなっている中において、語学等の支援をしていただける人材がいるかどうかという課題も出てくると思われる。

不登校支援のための取組について**【山越議長】**

次に、不登校支援のための取組について、事務局の方から説明願う。

【本山学校教育課長】

資料により、かほく市での不登校及び不登校傾向の状況、教育相談、スクールカウンセラー・心の教室相談員の配置状況について説明をなす。

【山越議長】

この不登校支援のための取組については、来年度の体制に向けて、主要事業のヒアリングでも市長に説明をさせていただき、教育委員会の視察研修でも、岐阜県の可児市の方で不登校支援について研修してきた。

私の方から補足説明しますが、文部科学省から不登校児童生徒への支援の在り方についての通知があり、支援の在り方が明確に示された。これまでの学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、社会的に自立することを目指すということ。家庭への支援。教育支援センターの整備充実及び活用。訪問型支援など保護者への支援の充実が必要であると示されている。

先日、金沢市と6箇所あるフリースクールとで、連絡協議会を発足したとの報道もあった。また、不登校児童生徒への対応についても教員の負担が多くなっている状況にあり、人員の配置など進めていきたいということで、市長さんにご理解いただき、お願いしたいということで。今回のテーマとなった。

教育委員の方からこの問題について発言を願う。

【山本教育長職務代理者】

数字が表しているように不登校・不登校傾向の児童生徒が増えている状況において、教員の負担も増えており、教職員の働き方改革にも影響がある。

先日の視察先で実施していた不登校に関する指導主事の配置も一つの手法かと考える。行政で何かできないかということで、人的配置ということになってくると思うが、児童生徒一人一人対応が違ってくるということで、なかなか難しい課題である。教員にだけ任せてしまうということも無理がある。

そういったことで、人的配置、家庭への支援が重要だと感じているところであり、市長さんの考えをお聞きしたい。

【油野市長】

先ほど、教育長の話にもあったように、人的配置をしてもらえないかということで話があった。これについては、しっかり取り組んでもらえればよいのではないかと話をした。それぞれ家庭の事情もあり、昔では考えられない状況でもあり、先生方の状況も変化している。そういった中で、先生の負担を軽減する。何よりも、子供たちが成長してもらうために、学校に行くだけではなくて、子供たちが社会的に自立するために、市として何ができるかを考え、市を挙げて取り組んでいきたい。

【松井教育委員】

先日、8050問題が新聞で取り上げられていたが、今、学校で取り上げられている問題が将来的に8050問題に繋がっていくのではないかと。現在、かほく市において、8050問題を抱えた家庭の実態把握はできているのか。

【油野市長】

現時点では、なかなか難しい。この問題は、なかなか家庭の事情を外に出したがるのではないかと。いろいろな機関に相談してもらえれば、把握もでき対応も可能になるが、いろいろな方に相談ができるかと考えた時には、難しいと感じている。全てを把握するという事はなかなか困難であると思う。

【山本教育長職務代理者】

義務教育では、引きこもりの件数は把握できるが、そういった子供たちが今どうしているのかと心配している。中学校を卒業してしまうと私たちにはその状況は把握できなくなる。そういった問題が8050問題にもかかわってくるので、そのあたりの情報共有ができないかという思いがあります。市長さんから、家庭の事情を外に出したがるのではないかとのお話がありましたが、何かキャッチできるものはないか。ひとりの人間として、社会的に自立させるという観点に立てば、市として何かできることはないか。

【油野市長】

地域の実情というのは、市ではなかなか掴み切れない。ただ、かほく市は、幸いにも区や町会が連携しながら、その地域にどんな方が住んでいるのかといったある程度の実情の把握に努めることができている。また、民生児童委員の方々とも連携をさせてもらいながら、実態の把握に努めている。このことは、これからもやっていきたい。また、地域によっては同級生のつながりもあったりして、いろいろな情報を集めながら実態把握に努めたい。

区長さんや町内会長、民生児童委員との連携は、8050問題だけではなく、様々な課題において連携しながら進めていきたいと考えている。

【松井教育委員】

今回の資料にある教育相談の件数が増えてきている。不登校の数が増えていること、学校からの周知もあるかもしれないが、来所して相談するという体制が、保護者に受け入れられるようになってきたと思う。こういった相談体制、システムが大切だと思う。大人になっても引き込んでいる方々に、ここで相談ができますよといった所が必要でないかと思う。

【山越議長】

教育委員会の中では、義務教育が所管になりますから、先ほど同級生のつながりの話もありましたが、現在、不登校になっている子が、同級生のつながりを持てるかという話にもなりますので、教育委員会として、小中学校での不登校対策には、しっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

そ の 他

【山越議長】

最後に、その他ということで、教育委員の方から何かありましたらお願いします。

【長柄教育委員】

先ほどの8050問題で、ICTを活用した取組を行うことによって、いろいろな情報が入ってくるのではないかと思う。学校のICT教育環境についてもよろしくお願ひしたい。

【油野市長】

ICTの活用というのは、お金もかかるが、国の方でも検討されている。

学校のICT教育環境についても提案をいただければ、遅れることの無いよう取り組んでいく。

【山越議長】

学校でのICT教育については、教室のWi-Fi整備に取り組んでいきたい。将来的には一人一台のタブレットの計画についても、国から照会が来ている。

【油野市長】

私は、そういった環境は整えていくので、教職員の負担も考慮しながら、しっかり活用していただけるよう教育委員会で検討してもらいたい。

【鮎野教育委員】

先ほど、区長さんとか民生委員さんとかのお話がありましたが、地域のボランティアで活躍している方は年配の方が多く、若い人がいない状況である。地域の活動にしても若い人たちが参加しづらい状況を市長さんはどのように思うか。

【油野市長】

現在の状況を見ると若い方は、今、仕事を一生懸命やっている。昔なら自営業の方が多くいたが、現状のサラリーマンが多い状況では、地域の活動に参加するのは難しいと感じている。土日であっても、お子さんをお持ちの家庭では、部活動やクラブ活動で、保護者が出なくてはいけない場合もある。今の若い世代は大変忙しいと思う。人のことまで構っている時間がないというのが現実ではないか。

このような状況を考えてどうしても、いろいろ役をお願いするのは、自営業の方で、かつ時間に余裕のある方、年配の方に集中せざるを得なくなってしまう。

年配の方であっても、取り組む気持ちが大切であって、いろいろな役職になったからには、責任を持って取り組んでほしいと思っているし、そういった責任感のある人をお願いしている。これからもいろいろな形をお願いするしかないと思っている。

【松井教育委員】

とんでもない要望になりますが、私は、学童保育が大変重要な施策で、かほく市は充実してきたと感じている。いろいろな形で無償化が出ている状況の中、学童保育の保育料の月額6千円について、安くならないのか。

【油野市長】

皆が受けられる部分、平等に受けられる部分であることを優先したい。ただ、学童の6千円というのも、合併時の一番安かった金額で調整し、それ以降、値上げをしていない。何でも安いに越したことはないが、インフルエンザのワクチン接種に対する助成にしても、県内でも一番安い負担となっておりますし、今ある負担をもっと下げるということについては、何らかの効果がないと難しい。財政に余裕があればいいですが、維持していくことをいかに長くするかということが大切だと考えているので、ご理解いただければと思う。

【松井教育委員】

かほく市については、医療費の窓口負担もないということで手厚い支援もしています。これからもよろしく願います。

【山本教育長職務代理者】

今回、在住外国人の教育支援について協議させていただいた。現在は、そんなに多くはありませんが、今後増えた場合、増える見込みがある場合には、よろしく願いたい。

【油野市長】

当然、そのような状況が予想される場合は、しっかり取り組んでいきたい。

【山越議長】

その他、ご意見がないようであれば議事進行を事務局にお返しする。

閉 会

【山口教育部長】

以上で、令和元年度かほく市総合教育会議を閉会します。
お疲れ様でした。

午後 2 時 40 分 閉会

議長（教育長） 山 越 充

署名（市 長） 油 野 和 一 郎

署名（教育委員） 山 本 滝 男